

認定NPO法人
市民セクターよこはま

■ 事業報告 2024 ■

2024（令和6）年度（2024年4月～2025年3月）



～誰もが自分らしく暮らせるまち～

一人ひとりの市民が主人公として、
幸せと豊かさを実感できる市民社会の実現を目指して...

【2024（令和6）年度事業報告書 目次】

◆ 2024（令和6）年度を振り返って	P 1
◆ 組織・事業	P 2
◆ 運営に関する事項（法人総務）	
(1) 会員〔会員数・会員総会〕	P 3
(2) 理事会〔開催日・議題〕	
(3) 各団体・行政機関等の委員の受任	P 4
(4) 他団体の会員として	P 5
◆ 事業に関する事項	
1. 市民協働推進部	
1) 横浜市市民協働推進センター運営事業	P 6
2) ヨコハマ市民まち普請事業	P 10
3) 空家等対策に関する地域活用支援事業	P 12
4) ボランティア活動施策推進会議	
5) 災害復興暮らし応援・みんなのネットワークかながわ（通称：みんな）	P 13
2. 市民活動支援部	
1) にしく市民活動支援センター（にしとも広場）運営事業	P 14
2) 西区地域づくり大学校	
3) 西区今昔かるた関連事業	
4) 活動者の取材・情報発信事業	
3. まちかどケア事業部	
1) 認知症ケア実務者研修	P 22
2) 認知症カフェ支援	P 23
3) まちかどピクチャーズ	P 24
4. 第三者評価部	
1) 福祉サービス第三者評価事業	P 25
5. DX 推進部 ※新設	
1) IT 支援業務	P 26
6. 法人の取組み（管理部）	
1) 法人の将来構想検討	P 27
◆ 資料編	P 28

2024（令和 6）年度を振り返って

理事長 鈴木 智香子

2024 年（令和 6 年度）は、あのコロナの後、いったんは人と接しない生活から急に、人とつながろう、地域コミュニティを醸成していこうと、様々なイベントや催しが解禁され、祭りの参加者が急に増えた年でもありました。でも、一度、人とつながらなくてもよいとされた日常的な関係は、そうすぐには戻らず、特に高齢者、乳幼児を持つ家庭といった、本来つながりが必須の人たちまでが、ひきこもり状態になるケースが地域では散見されました。高齢者は 3 年のコロナ禍で、3 歳としをとり、乳幼児親子は、地域とつながることなく、育休から復帰していったのです。また、不登校の子ども割合は、この 10 年で倍以上となりました。

日本人の幸福度が低い、こどもたちの自己肯定感が低いと言われて久しいのですが、アフターコロナ、毎年起こる自然災害、世界を取りまく情勢、それらをニュースや、インターネットで毎日見聞きして、幸福度を上げていくことの方が困難です。そのような時に、「小さなエリアで、顔の見える関係からつながりを取り戻し、そういう思いを持つ人たちが連携して、草の根から立ち上がっていこう」という市民の動きがここここで見えてきていることが、一つの希望だとも思います。

市民セクターよこはまでは、そういった市民の活動や、連携を支援する、「横浜市市民協働推進センター」や、西区の市民活動支援センターである「にしとも広場」を、横浜市とともに運営しています。

その主な事業には、総合相談、人材育成、交流促進、情報発信といった、市民活動に欠かせない機能がつまっており、多くの職員が行政職員とともに日々努力しています。また、空き家活用、防災、認知症ケア関連、第三者評価と横浜市民の生活の向上に資する取組を、今年も職員と法人が一緒になって進めてきました。

もちろんまだまだ足りないところも多くあったと反省もあります。しかし、今年度ほど多くの時間を理事監事がセクターの中長期計画について検討、議論した年はなかったかと思います。この話し合いが 2025 年度の新たな計画に活かされ、さらに会員、職員の皆様も含めた形での将来構想を考える議論につながっていくことを、期待しています。その将来構想をもとにした取組で横浜市民の幸福度の向上に寄与することができれば、多くの方に役に立つ、中間支援の横浜モデルとなっていくのではないのでしょうか。

引き続き、市民セクターよこはまへのご理解とご支援をよろしくおねがいいたします。

組織・事業

組織体制図



2. 市民活動支援部

- 1) にしく市民活動支援センター”にしとも広場”運営事業（西区協働事業）
- 2) 西区地域づくり大学校（西区受託事業）
- 3) 西区今昔かるた関連事業（西区受託事業）
- 4) 活動者の取材・情報発信事業

3. まちかどケア事業部

- 1) 認知症ケア実務者研修
- 2) 認知症カフェ支援
- 3) まちかどピクチャーズ（助成事業）

各事業部の担当事業

1. 市民協働推進部

- 1) 横浜市市民協働推進センター運営事業（市民局協働事業）
- 2) ヨコハマ市民まち普請事業（都市整備局協働事業）
- 3) 空き家マッチング（建築局受託事業）
- 4) ボランティア活動施策推進会議（神奈川県受託事業）
- 5) 災害復興暮らし応援・みんなのネットワークかながわ（内閣府モデル事業）

4. 第三者評価部

- 1) 福祉サービス第三者評価事業

5. DX 推進部

- 1) IT 支援業務

6. 法人の取組み（管理部）

- 1) 法人の将来構想検討

(1) 会員

- 会員数

2024（令和6）年3月31日時点：93

【正会員 84】団体 27/個人 57、【準会員 4】団体 1/個人 3、【賛助会員 5】団体 3/個人 2

↓

2025（令和7）年3月31日時点：84

【正会員 76】団体 26 /個人 50、【準会員 3】団体 1/個人 2、【賛助会員 5】団体 3/個人 2

- 社員総会（会員総会）

第22回 通常総会

日 時：2024（令和6）年5月21日（火） 19:00-20:00

会 場：市民セクターよこはま事務所（ICHIMATSU スクエア）またはオンライン（Zoom）

出席者数：54名（うち議決権行使 10名、委任 28名 | 正会員数 81名）

(2) 理事会

- 開催日

2024（令和6）年：4月30日、6月1日、6月25日、7月23日、8月27日、9月24日、
10月23日、11月26日、12月24日

2025（令和7）年：1月7日、1月28日、2月18日、2月25日、3月3日、3月25日

- 議 題

総会の企画・議案の検討

事業報告・決算、事業計画・予算、役員人事

各部事業の報告検討

市民活動支援部、市民活動支援部、まちかどケア事業部、第三者評価部、DX推進部

委員等の推薦、連携・協力依頼

法人運営の検討

規程の改正、法人の将来構想検討、職員面談、職員人事、給与改定 等

(3) 各団体・行政機関等の委員の受任

行政や社会へ提言、市民参画の拡大の為、さまざまな団体等の委員を引き受けています。

[委員・役員等の受任]

【県域】

- ・ 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事（中野 しずよ・鈴木 智香子）
- ・ 神奈川県かながわ協働推進協議会 委員（伊吾田 善行）
- ・ 一般社団法人神奈川オレンジネットワーク 理事（小菅 聡一郎）

【市域】

〔横浜市健康福祉局〕

- ・ 横浜市地域福祉保健計画・横浜市地域福祉活動計画検討会 委員（山野上 啓子）
- ・ 横浜市福祉有償移動サービス運営協議会 委員（服部 一弘）

〔横浜市こども青少年局〕

- ・ 横浜市親と子のつどいの広場事業選定委員会 委員（鈴木 智香子）

〔横浜市にぎわいスポーツ文化局〕

- ・ 横浜市民ギャラリーあざみ野指定管理者選定評価委員会 委員（加世田 恵美子）
- ・ 横浜市芸能センター指定管理者選定評価委員会 委員（加世田 恵美子）
- ・ 横浜市陶芸センター指定管理者選定評価委員会 委員（加世田 恵美子）

〔横浜市社会福祉協議会〕

- ・ 横浜市社会福祉協議会 福祉ボランティア・市民活動部会 委員（山田 美智子）
- ・ 横浜市社会福祉協議会 よこはまふれあい助成金運営委員会 委員（鈴木 智香子）
- ・ 横浜市社会福祉協議会 「福祉よこはま」 編集委員（小川 由起子）

〔その他〕

- ・ 認定 NPO 法人横浜移動サービス協議会 監事（中野 しずよ）

【区域】

- ・ 青葉区福祉活動拠点指定管理者選定委員会 委員（中野 しずよ）
- ・ 瀬谷区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員（加世田 恵美子）
- ・ 青葉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員（鈴木 智香子）
- ・ 港南区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 委員（鈴木 智香子）

[講師等の受任]

【県域】

- ・ 神奈川認知症カフェ学会大会 基調講演（小菅 聡一郎）
- ・ 神奈川県立保健福祉大学 地域作業療法学演習 講師（小菅 聡一郎）
- ・ 横須賀市認知症疾患医療連携協議会研修会 若年性認知症自立支援ネットワーク研修講師（小菅 聡一郎）

【市域】

- ・ 横浜市総合保健医療センター 認知症疾患医療センター地域連携会議（小菅 聡一郎）

【区域】

- ・ 戸塚区みまもりネット連絡会 講師（加世田 恵美子・山田 美智子）
- ・ 南区認知症キャラバン・メイト研修会&連絡会 講師（小菅 聡一郎）
- ・ 港北区篠原地域ケアプラザ キャラバン・メイト連絡会 講師（小菅 聡一郎）
- ・ 青葉区大場地域ケアプラザ キャラバン・メイト連絡会 講師（小菅 聡一郎）
- ・ 泉区ケアマネフォンテ総会・研修会 講師（小菅 聡一郎）
- ・ 泉区いずみ中央地域ケアプラザ キャラバン・メイト連絡会 講師（小菅 聡一郎）

(4) 他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しました。

- ・ 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会
- ・ 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会
- ・ 社会福祉法人横浜市西区社会福祉協議会
- ・ 認定 NPO 法人日本 NPO センター
- ・ 認定 NPO 法人横浜移動サービス協議会
- ・ NPO 法人税理士による公益活動サポートセンター
- ・ 災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ
- ・ 一般社団法人神奈川オレンジネットワーク

事業に関する事項

1. 市民協働推進部

1) 横浜市市民協働推進センター運営事業

(横浜市市民局市民協働推進課と協働契約を締結し実施しました)

実施内容

1. 総合相談事業

- 1-1. 総合相談窓口：行政、市民団体、企業、大学等、様々な主体との協働について相談・提案を受け付けるワンストップ窓口としました。
- 1-2. 市民協働相談会：テーマを設定し、共有の課題に関する対話の場を開催しました。
- 1-3. 市民協働提案事業説明会：市民協働推進課に協力して、市民協働提案事業に対する理解度を深め、多様な提案を広く受けるために、オン・オフラインで説明会を実施しました。
- 1-4. ダイアログ：政策経営局に協力して、企業・行政・市民団体等が対話する場を3回実施しました。

2. 情報の蓄積・活用・発信事業

- 2-1. 情報発信：センターや市内のイベント情報、助成金情報等を、ホームページやSNS、メルマガ、印刷物を通じて広く周知し、市民等に提供しました。
- 2-2. 情報誌発行：センターの広報、実施内容、センターで相談を受けた団体、セミナー等に参加した団体の活動紹介、市民活動・市民協働相談会の様子等を掲載しました。
- 2-3. HP再構築：利用者が利用しやすくするため、インターフェイスやコンテンツのメニューを再構築しました。
- 2-4. PR動画制作：センターの役割やミッションをSNS等で広く発信するため、PR動画を制作しました。

3. 人材育成事業

- 3-1. 協働スタートアップ：協働の概念からフィールドワークまで、実際の活動に役に立つ講座内容とし、3回開催しました。
- 3-2. 他都市の好事例共有セミナー：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）の事例を、市民、各区役所、各区の市民活動支援センターと共有するために、講師を招いてセミナーを開催しました。

4. 交流促進事業

- 4-1. ミズベサロン：協働に意識のある市民が顔を合わせて、社会課題の解決に関わりたいという考えを共有し、参加者同士がゆるくつながる場としました。

- 4-2. 市民協働 HUB 事業：「様々な主体がつながる」ためのハブ機能として、センターが市内外の様々なステークホルダーと連携するプラットフォームを整備しました。
- 4-3. ヨコラボ 2024：市内の協働・共創事例を紹介し当事者や関係者がディスカッション等を行うことにより協働・共創の仕組み化にヒントとなるものを共有しました。後半のセンター主催のセミナーではヤングケアラーをテーマにセミナーとワークショップを開催しました。

5. 市民活動支援事業

- 5-1. 市民活動（NPO）入門セミナー：NPO 法人設立に関心がある、または設立を具体的に検討・準備している団体・個人を対象に NPO 入門セミナーを実施しました。
- 5-2. 市民活動基礎セミナー：既存の市民活動団体や市民協働を実践している NPO 等を対象に、会計と PR 等に関するスキルアップできるセミナーを実施しました。（2 回開催）
- 5-3. 市民活動アピール DAYS：市内の市民活動団体が、活動する分野の垣根を越えて、相互に連携・協働しながらその活動を広く社会に発信するイベントを開催しました。（3 回開催）

6. 各区の市民活動支援センター支援事業

- 6-1. ネットワーク会議：各区の市民活動支援センター間の情報共有・職員同士の交流、機能強化を目的に、市民局と協働で 3 回実施しました。
- 6-2. ヒアリングと日常サポート：NPO 等の団体支援・協働に関する相談へのサポートと情報提供を行いました。
- 6-3. 機能強化事業との連携：市民局主催で開催している各区の市民活動支援センターの機能強化事業に参加し、プログラム構成や知識等を吸収しました。（6 回）

7. 協働を促進するスペースの活用

- 7-1. 団体登録：団体登録の事前ヒアリングでは、課題を聞き取るなど市民活動支援に繋がる情報収集に努めました。また、センターのスペース有効活用のため、登録団体へ積極的な利用案内を行いました。
- 7-2. 窓口対応、スペース運営：協働ラボはセンター事業や打ち合わせスペースとして運営しました。スペース AB は横浜市との協働によるスペース活用を行いました。（市の後援、共催、主催事業）
- 7-3. 協働推進センタースペース予約システム導入：協働ラボ・スペース AB の利用が増え、リアルタイムで予約管理できるように WEB システムを導入しました。

成果

1. 総合相談事業

1-1. 総合相談窓口：市民活動、他団体との協働、組織運営、NPO 設立等、年間 1,056 件。

1-2. 市民協働相談会：下記テーマで実施し 42 名の参加がありました。

①若手人材が楽しく活躍できる組織を目指して 7/30（参加者 11 名）

ゲスト：坂田 美絵氏（NPO 法人街の家族 理事）、

協働コーディネーター：楯 晃次氏（株式会社 EMA 代表取締役）、

②地域でつながり、まちを元気に 9/2（参加者 31 名）

ゲスト：石井 雄輝氏（関東学院のびのびのば園 地域連携専任教諭）

ゲスト：三谷 大紀氏（関東学院大学教育学部こども発達学科 准教授）

協働コーディネーター：原 美紀氏（認定 NPO 法人びーのびーの 事務局長）

1-3. 市民協働提案事業説明会 4/26：市民協働推進課に協力して、市民協働提案事業に対する理解度を深め、多様な提案を広く受けるために、オン・オフラインで説明会を実施しました。（16 名）

1-4. ダイアログ：政策経営局に協力して、企業・行政・市民団体等が対話する場を 3 回実施しました。

2. 情報の蓄積・活用・発信事業

2-1. 情報発信：メルマガ（約 4600 発信/月）、SNS（Instagram：401、Facebook：878、X：215）

2-2. 情報誌発行：4000 部発行（認定 NPO 法人森ノオトとの協働事業）

3. 人材育成事業

3-1. 協働スタートアップ：①「市民協働とは、横浜コードから今まで」9/29（参加者 16 名）、②「一緒に取り組むこととは」6/12（19 名）、③「地域を知るためのフィールドワークとは」6/19（21 名）

3-2. 他都市の好事例共有セミナー：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）の事例を、市民、各区役所、各区の市民活動支援センターと共有するために、講師を招いてセミナーを開催しました。

4. 交流促進事業

4-1. ミズベサロン：「つながろう！私たちの声が届くように」（参加者 15 名）

4-2. 市民協働 HUB 事業：公益社団法人かながわ福祉サービス振興会、ヨコハマ SDGs デザインセンター、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会、社会福祉法人横浜市社会福祉協議会等 9 団体 11 名参加

4-3. ヨコラボ 2024：共創推進課と連携して開催しました。ヤングケアラーシンポジウム（76 名）、ラウンドテーブル（25 名）

- 4-4. 他都市好事例セミナー「クリエイティブ思考×社会課題～横浜を豊かにする種を考える～」
(参加者 63 名)

5. 市民活動支援事業

- 5-1. 市民活動入門&基礎強化セミナー3/13 (参加者 16 名)
5-2. 市民活動基礎セミナー：NPO 会計セミナー7/17 (参加者 21 名)、PR セミナー12/4 (26 名)
5-3. 市民活動アピール DAYS IN わくわく！こどもデー：5月3日～5日 (参加者 3,980 名)、8 月 10 日～11 日 (参加者 1,436 名)、10 月 19 日～20 日 (参加者 1,208 名)

6. 各区の市民活動支援センター連携・支援事業

- 6-1. ネットワーク会議：3 回開催協力
6-2. ヒアリングと日常サポート：32 回ヒアリング実施

7. 協働を促進するスペースの活用

- 7-1. 団体登録：173 団体
7-2. 協働ラボ・スペース運営管理：利用者約 2 万 7 千人

課題・展望

- ・効率的な事業実施のために、事業構成を検討
- ・予算削減の対策
- ・人員体制の強化

2) ヨコハマ市民まち普請事業

(横浜市都市整備局、横浜市住宅供給公社と協働契約を締結し実施しました)

実施内容

昨年度に引き続き、3者の役割分担に基づき、当法人は以下を担当しました。

◆ 公開1次コンテスト YouTube 配信

開催日：2024（令和6）年7月21日（日） 会場：横浜市役所1階アトリウム

14グループから提案があり、12グループが2次コンテスト対象提案として選考されました。

◆ 公開2次コンテスト YouTube 配信

開催日：2025（令和7）年1月26日（日） 会場：横浜市役所1階アトリウム

10グループ（2グループ辞退）のうち5グループが整備助成対象提案として決定しました。

提案名	グループ名	区
いの池を中心とした地域資源循環システムの再生と維持	師岡熊野神社「いの池」愛護会	港北
あおぞら広場	あおぞら広場をつくる会	金沢
シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備	二つ台みーとみーとPJ	保土ケ谷
懐かしい街の記憶を次世代へと繋ぐ拠点	パレット境木ベース運営委員会	保土ケ谷
熊野の森、子どもの居場所プロジェクト	熊野の森、子どもの居場所プロジェクト実行委員会	港北

◆ 現地見学会（バスツアー）

開催日：2024（令和6）年8月28日（水）

対象者：審査委員、1次コンテスト通過グループ

見学先：令和5年度整備施設3箇所

シェアベース洋光台（磯子区）、てんこもりのわ（神奈川区）、城郷ノスタルジア（港北区）

◆ 2次コンテスト対象提案現地視察（バスツアー）

開催日：2024（令和6）年10月29日（火）・31日（木）※対象が多いため2日に分け実施

対象者：審査委員

視察先：一次コンテスト提案10箇所

◆ 事前登録者向け整備施設見学会（バスツアー）

開催日：2025（令和7）年3月9日（日）

対象者：事前登録者13名

見学先：みんなの絵本のおうち（泉区）、宮ノ前テラス（泉区）、
美晴台道路の愛称入り案内板（港南区）

◆整備提案グループの伴走支援

年度を通し、横浜市地域まちづくり課と共に提案グループの打合せ等に参加。活動のノウハウ提供、議事録作成など実施。

◆まち普請事業に関する広報協力

- ・横浜市市民協働推進センターにおける事業を通じた広報

メールマガジン：各イベント・応募案内

- ・法人事業を通じた広報

西区地域づくり大学校：まち普請事業の制度紹介

成果

まち普請は、横浜市都市整備局地域まちづくり課、横浜市住宅供給公社、市民セクターよこはまの三者による協働事務局で運営しています。それぞれの強みを生かした業務分担をしています。昨年度から加わった伴走支援では、当法人がもつ市民活動支援のノウハウをより活かすことができたと考えます。

課題・展望

まち普請は、様々な活動団体の立ち上がりから運営まで、実際に見て聞いて体感できる貴重な事業の一つです。事務局業務を担うと職員自身が市民活動支援の引き出しを増やすことができ、成長につながります。その意味で、事務局業務を担える職員体制の検討が必要です。

3) 空家等対策に関する地域活用支援事業

(横浜市建築局住宅政策課の受託事業として実施しました)

実施内容

- ① 相談・ヒアリングの実施
- ② 空家の案内窓口との連携
- ③ 物件と活用団体のマッチング、コーディネート、支援
- ④ 空家活用セミナーワークショップ

成果

空家に関する相談は年間 81 件、登録団体は 19 団体でした。5 件の物件に対して、6 つの団体のマッチングを行いました。1 件については、成約になり、推進センターHP で訪問レポートでも紹介しました。

空家活用セミナーでは、空家という物件の特徴を理解し、活動を検討する実践的なワークショップを実施し、好評でした。

課題・展望

- ・居住目的で空家を探している等、当制度の趣旨と異なった問合せがあり、継続的に周知活動が必要だと考えられます。
- ・営利目的でビジネスをしたいという問合せが多く、当制度の趣旨を周知する必要があると考えられます。

4) ボランティア活動施策推進会議

(神奈川県政策局の受託事業として実施しました)

実施内容

神奈川県と市町村の連携・協力を図り、県内のボランティア活動の充実に向けた取組を推進していくため、施策に関する協議、意見交換等を行うことを目的にボランティア活動施策推進会議（課長・実務担当者合同会議）を実施しました。

(ア) 横浜市市民協働推進センターによる協働推進等に関する取組事例の紹介

横浜市市民協働推進センターの伊吾田センター長（特定非営利活動法人市民セクターよこはま理事）から協働推進等に関する取組事例を紹介。

(イ) 情報交換事項について、提案型の協働推進事業の一層の促進について

提案自治体からの説明：藤沢市

情報提供：大和市、川崎市

(ウ) 県からの情報提供、「寄付月間」・「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング」における取組について神奈川県 NPO 協働推進課から情報提供があった。

成果

- (1) 日 時：2025（令和 7）年 1 月 17 日（金） 10：30～11：30
- (2) 開催方法：Zoom（オンライン）
- (3) 参加者数：出席市町村：23 市町村 27 名、県：NPO 協働推進課 3 名
かながわ県民活動サポートセンター 1 名、合計 31 名

※神奈川県との信頼関係継続の一助となった。

5) 災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ

（内閣府「官民連携による被災者支援体制整備」モデル事業として実施）

実施内容

■ 県域

- ① 規約に基づき、定期的な会議開催（年 6 回）
- ② ネットワークづくり
- ③ 「企業・団体等における社会貢献（災害支援分野）の取組に関するアンケート調査」
- ④ ぼうさいこくたい 2024 に参加
- ⑤ 情報共有会議の立ち上げに向けた訓練（図上訓練）
- ⑥ JVOAD 中間支援組織全体会、訓練プログラム検討会参加

■ 市域

- 1 横浜市における三者連携の強化（横浜市市民局＋横浜市社協＋みんな）
- 2 男女共同参画センター横浜主催 防災研修 企画運営サポート
- 3 横浜市における市民活動団体とのネットワーク強化

成果

今年度も、神奈川県や横浜市が大災害の被災地となったときに備え、被災者のくらしの復興をさまざまな団体が連携して長期に亘り支える仕組みをつくるため、市内の団体等の連携・協働を進めるネットワークづくりを目的とした活動を行うことができました。

課題・展望

R8 年度に防災庁が設置されるなど、国の動きを見つつ神奈川県との連携を深め、横浜市をはじめとした市町村との連携についても取り組んでいく必要があります。

2. 市民活動支援部

1) にしく市民活動支援センター“にしとも広場”運営事業

(横浜市西区役所と協働契約を締結し実施しました)

2) 西区地域づくり大学校 (横浜市西区役所の受託事業として実施しました)

3) 西区今昔かるた関連事業 (横浜市西区役所の受託事業として実施しました)

4) 活動者の取材・情報発信事業

実施内容

1) 相談事業：相談をワンストップ化し、日頃の会話を相談につなげました

- ・2024（令和6）年度の相談件数は301件（対前年比107.1%）でした。区民、地域活動者、市民活動者からの相談に加え、アウトリーチにより連携を強化した施設や団体等からも訪問時に相談が入りました。
また、区外・市外の施設等からは、地域人材ボランティアの派遣に関する相談が増え、コーディネートにつながりました。
- ・活動団体、地域、個人等からのあらゆる相談に真摯に向き合い、相談者のニーズを引き出し中間支援組織としての視点から提案やエンパワメントができるように、相談しやすい環境を整え職員の傾聴研修を実施しました。

2) 情報提供・発信事業：様々な情報提供のツールを使い、定期的、かつ多面的に情報を発信

- ・センターの事業周知と、様々な情報発信のために、従来の情報提供・発信方法を見直し、多様な人々に向け、SNSによる新たな情報提供・発信を開始し、新たな利用と相談につながりました。
- ・区民利用施設等に向け、イベントカレンダーを毎月持参し、先方の担当者と顔の見える信頼関係を構築し、情報交換を進めました。事業、施設運営等に関する相談のきっかけになりました。
- ・地域活動に関する情報のハブとして、区民利用施設連携会議「ゆるとも西」参画施設による自主事業一覧カレンダーを下半期から作成し、施設間で共有しました。互いの事業を知り、効果的な広報活動と施設運営につながりました。
- ・ヨコハマ市民まち普請事業により整備された区外の活動をめぐるバスツアーを企画し、区内の活動者と区役所職員、当センター職員が現地見学と意見交換をしました。ツアーの様子は、職員が自らの言葉でレポートを発信しました。

①情報紙「にしとも広場」（9月・3月発行/各3,000部/A4/8ページ）

■第23号：「こんにちは！」「おじゃましてす！」想いがつながる‘みんなのおうち’

特集：一軒まるごと‘みんなのおうち’ 戸建てを活用した地域の居場所「にこにこはうす」「ばあばの家あさだ」

登録団体インタビュー：フォトラボ・ルーチェ

■第 24 号：地域に広がる“学びの場”

特集：ともに学ぶボランティア「あすのち」「にしともるーむ」

登録団体インタビュー：こどものカフェ

②月間イベントカレンダーの発行（毎月 900 部/2 色刷り/A4 両面）

③ホームページ・Facebook・Instagram・YouTube からの情報発信

④展示スペースの活用（壁面ギャラリー・小箱ギャラリー）

「壁面こいのぼり」・にしとも広場「アート展」・登録団体写真パネル展 等実施

⑤市民利用施設等イベント情報・広報よこはまへの掲載

3) 団体マネジメント・ネットワーク支援事業：活動がステップアップする機会や情報を提供し、より活発な活動となるよう促進

地域人材ボランティア『西区街の名人・達人』や登録グループ・団体等などの活動がより活発になり、地域で活躍の場が増えるよう、センターのあらゆる事業を通して情報を周知し、依頼先からの相談に丁寧に対応しました。

①地域人材ボランティア事業『西区街の名人・達人』

●登録件数：156 件（新規 11、削除 3）

●体験会：体験会の様子は YouTube に公開し、今後の依頼と活動につなげました。

日付	イベント名	講師	参加人数
4/14 AM/PM	入門 春のアロマテラピー (希望者多数のため PM 増設)	Tree house 松井友美	AM:13 名 PM:10 名
7/28	親子で STEAM クラフト体験	STEAM 教育デザイナー西田俊章	親子 9 組
3/6	楽しく体づくり！玄米ダンベル体操	嶋本和子	6 名

●連携事業：「にしとも音楽祭」を初めて実施し、その後のコーディネートにつながりました。

日付	イベント名	講師・演奏者	参加人数
4/7	うたごえ広場	音楽ボランティア一座にし	AM:14 名/PM:21 名
4/11 -5/6	壁面こいのぼり	高野圭子・村山陽美・田中碧・ 加藤友美・千村曜子	来館者による折り紙作品数 144 個
5/6	母の日のプレゼント をつくろう	Flowerdesign ♪陽 Haru	11 名
6/30	にしとも音楽祭	西区街の名人・達人登録 音楽活動者 12 組 (42 名)	のべ 153 名
8/18	こども科学捜査体験	久保雅信	AM:子ども 20 名大人 20 名 PM:子ども 20 名大人 20 名
11/1-30	アート展	13 組の活動者による合同展	アンケート回答者数 168 名

11/3	うたごえ広場	音楽ボランティア一座にし	AM:15名/PM:18名
11/24	水墨画で描く干支 カレンダー	吉田紅峯	9名
12/1	クリスマススワッグ をつくろう	Flowerdesign ♪ 陽 Haru	11名
12/1	クリスマスリース をつくろう	Flowerdesign ♪ 陽 Haru	15名
1/26	にしとも音楽祭 mini	金子達郎・漆崎信二	19名
3/29	にしとも音楽祭 mini	ほづみ・クワトロ◇ピーナッツ	19名

- **活動先のコーディネート**：活動先やコーディネート先に出向いて、依頼者の意見や感想を聞いたほか、参加者の様子も把握し、より良いコーディネートを心がけました。

【コーディネート実績】

年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
申込件数	39 件	42 件	65 件
成立件数	28 件	37 件	56 件

②登録団体

- 登録件数：176 件（新規 10、削除 2）

にしとも広場を利用する登録団体の活動を月間イベントカレンダーや情報紙等に掲載したことにより、参加者が増えました。また、団体との連携事業を区民利用施設にて実施しました。

団体名	開催日	内容	連携先等	参加者数等
読み語りグループ ぱれっと	7/27	にしとも☆こども 広場 おはなし会	横浜市中央図書館	6 組 13 名 (定員 10 名)
あすのち@浅間コ ミュニティハウス	8/23・24	夏休みの宿題を 終わらせよう	浅間コミュニティハウス・ 平沼小学校・浅間台小学校	8/23 : 生徒 6 名ボラ 15 名 8/24 : 生徒 7 名ボラ 14 名 タウンニュース掲載
スマホサポーター WEST	10 月～ 自主活動化 (月 1 回)	スマホ相談会	西区社会福祉協議会	10 月～1 月の合計 相談者 17 名
グリーフサポート よこはま	1/13	「グリーフ」って 何？	西区福祉保健センター・ 西区在宅医療相談室	参加者 15 名
読み語りグループ ぱれっと	12/22	にしとも☆こども 広場 おはなし会	横浜市中央図書館	3 組 9 名 (定員 10 名)

あすのち@浅間コ ミュニティハウス	12/28	冬休みの宿題を 終わらせよう	浅間コミュニティハウス・ 平沼小学校・浅間台小学校	生徒 12 名 ボラ 12 名
NPO 法人おれんじ ハウス	1/25	キッチンカー おれんじ食堂	藤棚地区センター・ 藤棚地域ケアプラザ・ 第 4 地区社協	藤棚地区センター： 80 食 第 4 地区会館： 132 食 合計 70 世帯

③西区街の名人・達人及び登録団体、地域活動者の交流会

街の名人・達人及び登録団体に加え、地域づくり大学校修了生や区民利用施設等連携会議「ゆるとも西」に参画する施設関係者を交えた交流会を開催しました。

第 1 部：研修会（15:00～16:45）「知っておきたい。イマドキの知的財産権」

講師： 弁理士湯口文丸氏（特許事務所湘南ラボ） 参加者数：25 名

第 2 部：懇親会（17:00～18:30）（名人・達人登録者による演奏・披露あり）参加者数：20 名

④西区民まつり in にしとも広場

時間・場所・参加者数	内容・連携先
11/10（日）10:00-15:00	西区民まつり in にしとも広場
10:00-16:00 @にしとも広場内 来場者数：141 人	おやこ休憩室 連携団体：子育て万歳サロン・よこはま布えほんぐ ーぷ
期間内同時開催	にしとも広場アート展 名人達人登録アート活動者 を紹介
12:00 - 12:30 @にしとも広場前屋外スペース 来場者数：62 人	ヒーローショー 名人達人登録：帷子戦士デザイナー
10:00-16:00 @戸部公園くらしの広場	「西区今昔かるた」販売 販売数 66 個

4) 地域支援事業：地域で活躍する人材の掘り起こしと伴走支援

- ・「西区地域づくり大学校」では、参加者の想いを実現するだけではなく、地域とのつながりや地域の中での活動を意識して、プログラムを構成しました。
- ・その他の事業においても、センターの役割を伝え、信頼関係を構築して、事業に取り組みました。
- ・「何かをしたい」「何ができるだろうか」「活動したいがどうしたらよいかわからない」というような思いをもって来館する方々、また、地区社協や自治会町内会等で活動する方々、様々な方々の思いを汲み、活動につながる適切な情報提供と伴走支援、地域とのコーディネートを実施しました。（申込 11 名/受講 9 名/修了 8 名）

①第 13 期 西区地域づくり大学校

	日時・場所	テーマ・内容・講師
第 1 講	10/27 (日) 9:30-12:30 区役所 3 階会議室	にしくについて知ろう 講義 1 : 「西区について知ろう」 西区区政推進課 川添課長 講義 2 : 「地域のしくみ」 西区社会福祉協議会 米岡会長
第 2 講	11/16 (土) 13:00-16:00 各見学先	聞いて、見て、地域を知ろう～見学・まちあるき～ 浅間台地域ケアプラザ⇒浅間台みはらし公園⇒ディアナ横濱⇒ 浅間 3 丁目自治会館⇒にこにこはうす⇒浅間コミュニティハウス
第 3 講	12/8 (日) 10:00-16:00 区役所 3 階会議室	おもいを形に 活動プランをつくろう 講義 : 「地域とつながり、活動を楽しむために」 国立大学法人宇都宮大学地域デザイン科学部 石井大一郎教授 オブザーバー : 第一地区 清水さん、第 2 地区 西山さん 第 3 地区 山本さん、第六地区 秋末さん
第 4 講 修了式	1/11 (土) 9:30-12:30 区役所 3 階会議室	振り返り・活動の共有 菊地区長・川添課長／来賓 : 2 名

②区制 80 周年記念「西区今昔かるた」関連事業

- ・かるたの販売を受託し、開館時間内に販売した他、かるた大会や区民まつり等のイベントにおいても出張販売しました。
- ・4 回連続講座「西区今昔かるた伝道師養成講座」を区と協働で実施し、かるた大会やかるたを活用したイベント・講座等を開催する人材を育成しました。(受講生 : 11 名)
- ・伝道師講座をきっかけに、区民利用施設、福祉施設、地域活動団体による、かるたを活用したイベント等の開催につながりました。

「西区今昔かるた伝道師養成講座」

	日程	内容
第 1 回	9/20 (金)	「語り合う」講師 : にしくシティガイドグループ かるたの絵札を読み解き、西区の歴史や街の魅力について語り合いました
第 2 回	10/18 (金)	「活用する」講師 : 金沢区「カナかる！」企画・運営チーム 金沢区の事例から、かるたの活用とイベント実施のノウハウを学びました
第 3 回	11/15 (金)	「企画する」講師 : 瀬谷区青少年指導委員連絡協議会 かるた大会の企画と運営について具体的に学び、企画を考えました
第 4 回	1/18 (金)	「伝道師デビューかるた大会」@西前小学校コミュニティハウス かるた大会を実際に企画・運営しました。受講生にとって多くの学びとなると共に、参加者からは高い評価をいただきました。 参加者 : 小学生の部 22 名 / 中学生以上の部 8 名

③にしともるーむ

- ・外国につながる子どもの学習支援教室「にしともるーむ」を毎週火曜日 16:00～17:00 開催しました。
- ・近隣小学校の国際教室と連携し、参加を呼び掛け、参加につながりました。
- ・公益財団法人横浜市国際交流協会 YOKE、西区社会福祉協議会、こども青少年局、健康福祉局（よこはまポジティブ・エイジング事業）と連携し、事業を周知したことで、ボランティア登録につながりました。

④地域のまつり等への参加

西区今昔クイズ、パネル展示、情報紙・イベントカレンダーの配布を行いました。

日程・名称・場所・来場者数	主催・出展内容
7/20 第五地区納涼まつり 西地区センター・西公会堂 来場者数：約 1,000 人	主催：第五地区社会福祉協議会 「西区今昔かるた」クイズ、カレンダー、チラシ、情報紙等の配布
10/6 みなとみらい あきまつり 高島中央公園 来場者数：約 5,000 人	主催：みなとみらいあきまつり実行委員会 「西区今昔かるた」クイズ、カレンダー、チラシ、情報紙等の配布
2/15 にこまちフォーラム 西公会堂	主催：西区役所 「西区今昔かるた」販売、カレンダー、チラシ、情報紙等の配布
2/22 にしく名・達まつり 藤棚地区センター 来場者数：約 1,000 人	主催：にしく名・達の会 「西区今昔かるた」クイズ、カレンダー、チラシ、情報紙等の配布
3/8 第4地区みんなのまつり 一本松小学校 来場者数：約 800 人	主催：第4地区社会福祉協議会 「西区今昔かるた」クイズ、カレンダー、チラシ、情報紙等の配布

⑤運営事業評議会の実施

今年度より、区長から就任依頼を受けた専門家、学識経験者、地域代表等で構成される運営事業評議会を開催し、当センターの事業や役割について、また地域の課題やニーズについて等、意見交換する評議会を実施しました。

5) 区・区民利用施設との連携：地域情報の共有と連携で、地域力アップを目指しました

- ・今年度より、区民利用施設等を毎月訪問し、担当者と会話を重ねることで、顔の見える信頼関係を築くことができました。
- ・施設等が持つ課題等を把握し、センターから適切な情報を提供することで、活動者をつなぎました。

①区民利用施設等との連携会議「ゆるとも西」の実施（参画施設・機関数：20）

- ・6/20、区民利用施設連携会議「ゆるとも西」を実施しました。各施設が注力している事業を紹介し、今後の情報発信と連携方法について話し合いました。

②区民利用施設自主事業カレンダー

- ・下半期より「ゆるとも西」自主事業一覧カレンダーを作成し共有しました。情報は適宜更新し、各施設が取り組んでいる事業を視覚化することで、効果的な情報発信と、今後の運営に活かしました。

③センター事業における区内施設等との連携

●スマイル・ポートとの連携

日時・場所・参加者数	内容・連携先
8/25（日）10:00-12:00 にしとも広場、区役所屋外スペース、区役所会議室 参加者：子ども 41 名・大人 35 名・ボランティア 5 名	みんなで！みちあそび in にしとも広場 共催：西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート 浅間台みはらしプレイパーク 協力：よこはまユース 西前小学校 よこはま布えほんぐるーぷ 子育て万歳サロン

●生活支援センター西との連携

日時・場所・参加者数	内容
3/15（土） 13:30-15:30 西区役所 3 階会議室 参加者数：11 名	あなたの・わたしの「ふつうの暮らし」とは ・参加者のアイスブレイク「にしにく大好きすごろく」 ・ワーク「暮らしをひもとく」 ・地域の中の温かい見守り事例（民生委員からのお話） ・暮らしをサポートする事業について （生活支援センター西より）

●横浜市中央図書館との連携「こぼこ図書」

- ・中央図書館サービス課と連携し、センターの事業テーマに沿った書籍を、毎月司書が選定する「こぼこ図書」を設置し、地域の方の学びと楽しみの機会をつくりました。
- ・7月と12月には、登録団体と連携し、選書にあわせたテーマのおはなし会を実施しました。

開催月	関連するセンター事業	選書のテーマ
5月	壁面こいのぼり	おやこあそび・折り紙
6月	にしとも音楽祭	音楽・楽器・音楽の歴史
7月	かるた大会	日本の祭り・世界の祭り
8月	みちあそび	絵本特集
9月	認知症講座	認知症理解・認知症予防
10月	発達障がい講座	障がい理解・療育
11月	—————	児童虐待防止・女性の権利
12月	クリスマスおはなし会	世界のクリスマス
1月	かるた大会	昔あそび・かるた・すごろく
2月	—————	SDGs・脱炭素
3月	精神障がい講座	精神障がい理解・家族について

6) 施設運営管理：市民活動の玄関口として気軽に立ち寄れる施設を目指しました

活動や暮らしがより豊かになる情報を幅広く収集・発信し、必要なスペースや機材の貸し出しを行うことで、活動者の自発的な活動と発信を応援しました。相談やちょっとした問合せにも丁寧に対応し、今後の利用と事業等につなぎました。

7) 職員体制・研修：職員のスキルアップと職員間の情報共有を心がけました

来館時やアウトリーチ等、あらゆる場面での日頃の対話から、地域活動、市民活動に関わる活動者や施設関係者との信頼関係の構築と情報の受発信を心がけました。

●職員研修（公開研修のみ掲載）

実施日・形態・参加者	内容・講師
4/11（木）非公開	個人情報保護研修 講師：松本理事
6/25（火） 一般参加 12 名/スタッフ 6 名	傾聴と対話のワークショップ 講師：NPO 法人アーモンドコミュニティネットワーク代表 水谷裕子氏
9/15（日） 一般参加 3 名/スタッフ 2 名	認知症と共に歩む地域 講師：医療法人活人会 グループホーム横浜ゆうゆう 管理者 井上義臣氏
10/12（土） 一般参加 7 名/スタッフ 2 名	子どもの発達について話をしよう 講師：横浜市中部地域療育センター 地域支援課長 佐藤克也氏 横浜障害児を守る連絡協議会 副会長 八木澤恵奈氏
2/19（水） 一般参加 3 名/スタッフ 6 名	地域活動見学バスツアー（ヨコハマ市民まち普請事業の整備箇所 3 か所） コミュニティカフェ icocca（港南区）⇒美晴台サイン・マップ（港南区） ⇒おもいやりハウス（南区）
2/25（火） 一般参加 11 名/スタッフ 6 名	いざという時役立つ 救急救命 講師：一般財団法人エマージェンシー・メディカル・レスポnder財団 代表理事 河波弘晃氏
3/25（火） 非公開：スタッフ 6 名	不審者対応訓練 講師：戸部警察署 生活安全課

8) 区役所との協働：地域振興課及び関係課とのさらなる連携を進めました

当センターが、「西区に暮らす人々、働く人々、訪れる人々が、西区に愛着を持ち、人と人のつながりを育み、力を活かす地域協働の総合拠点」となるべく、地域振興課を中心とした区役所および関係機関との協働をすすめました。必要な情報は適宜共有し、会議等にも参加しました。

西区地域自立支援協議会 4 回／ボランティア・市民活動部会 4 回／地域センター会議 4 回

3. まちかどケア事業部

1) 認知症ケア実務者研修

実施内容

介護職、認知症カフェ関係者、認知症当事者を抱える家族などを対象に、認知症の基礎知識やパーソンセンタードケアを軸とした介護について、しっかりと基本から学ぶ研修を実施しました。情報公表制度の研修項目や認知症ケア専門士単位認定講座に対応した全2日間のプログラムとしました。

開催日時：2024（令和6）年12月22日（日）10時～16時

2025（令和7）年1月5日（日）10時～16時

会場：横浜市健康福祉センター8階

参加者：1日目 47名 2日目 34名（延べ81名）

講師陣：高齢者グループホーム横浜ゆうゆう 井上義臣氏

看護小規模多機能施設のぞみ 富田克利氏

高齢者グループホーム横浜はつらつ 長本節子氏

認知症の人と家族の会神奈川県支部 村井キヌエ氏

有料老人ホームプレザンメゾン横浜羽沢町 村上美佳氏

グループホームみのり 原啓子氏

内容：1日目／■認知症について

■認知症の方の理解と接し方の基本

■ターミナルケア、看取り

2日目／■認知症ケアの倫理

■事故発生及び再発防止

■身体拘束、高齢者虐待

■ひもときシート

成果

昨年、検討課題として上がったテーマ「看取り」を実施項目に加え、認知症に関わる研修としてより充実した内容となりました。講師6名各人が項目を担当していますが、講師陣は小規模多機能やグループホームなど様々な施設管理者等で、講義にはその背景・経験からのコメントが生きており、より納得感・満足度の高い研修となりました。

課題・展望

例年少しずつ医療関係者の参加が増えていますが、今年度は、訪問歯科から10名の参加がありました。研修1日目は医療現場の方の学びに適しているのので、医療関係者への周知を検討していきます。ま

た、本研修を定期的な研修に組み込む施設も増えており、個別周知の希望もあることから対応を検討していきます。

2) 認知症カフェ支援

実施内容

- 認知症カフェの立ち上げ・開催支援
- 企業内認知症カフェ等の立ち上げ・開催支援
- 「かながわオレンジネットワーク」への協力と県域展開の検討

成果

- スターバックスコーヒー横浜市役所ラクシスフロント店が主催する「オリーブプレイス」(第3月曜・10時から)の運営を支援しました
- 4/22、泉区の介護支援専門員の連絡会である「ケアマネフォンテ」総会にて講演を行いました
- 4/30、篠原地域ケアプラザのキャラバン・メイト連絡会で講演を行いました
- 5/20、いずみ野地域ケアプラザのキャラバン・メイト連絡会で講演を行いました
- 6/18、神奈川県立保健福祉大学の地域作業療法学演習に講師を派遣しました
- 6/20、大場地域ケアプラザのキャラバン・メイト連絡会で講演を行いました
- 6/26、南区キャラバン・メイト連絡会で講演を行いました
- 9/21、トレッサ横浜アルツハイマーデーイベントに参加しました
- 10/16、スイスの映像作家 Christina Kerber 氏の調査に協力しました
- 11/27、神奈川県主催キャラバン・メイト養成研修(小田原市役所)に協力しました
- 1/23、神奈川県主催キャラバン・メイト養成研修(海老名市役所)に協力しました
- 1/25、スターバックスコーヒーCIAL 桜木町 ANNEX 店が主催する「和っかカフェ」(第4土曜・10時から)の新規立上げを支援しました
- 2/1、認知症疾患医療連携協議会研修会 若年性認知症自立支援ネットワーク研修(横須賀市)に企画・協力しました
- 2/14、マレーシア国民大学主催オンラインシンポジウムに協力しました
- 2/22、一般社団法人神奈川オレンジネットワーク主催「第2回かながわ認知症カフェ学会大会」に講師を派遣しました
- 2/28、横須賀市認知症カフェ連絡会に協力しました
- 3/15、「豊岡ふらっとカフェ」スタッフ研修会に講師を派遣しました

課題・展望

○ 2023 年度に始まった元町中華街エリアのスターバックスコーヒー9 店舗との関係性が今年度はさらに深まりました。市役所1 階のラクシスフロント店主催の「オリーブプレイス」は順調に年12 回開催されました。11 月には CIAL 桜木町 ANNEX 店から新たに認知症カフェ「和っかカフェ」開設の相談があり、1 月25 日に第1 回を開催、以後両カフェの運営を支援しています。

- 5月、かながわボランティア活動推進基金 21 に「県警職員 1 万人を対象とする認知症サポーター養成講座実施事業」で応募しました。認知症基本法が制定され認知症サポーター養成講座のテキストが切り替わったタイミングに当事業部の知見を役立てられる可能性を探りましたが、残念ながら採択には至りませんでした。
- 今年度は神奈川県主催の認知症キャラバン・メイト養成研修に協力しました。県との協働等を通じ今後も積極的に県域での活動を広げていきたいと考えています。
- 11月、県域での活動を広げるため、一般社団法人神奈川オレンジネットワークに団体として加入しました。
- 今年度は国際的な協力依頼が続きました。10月にはスイス在住の映像作家 Christina Kerber 氏が来日し、その調査・取材に協力しました。また8月にはマレーシア国民大学の Khadijah Alavi 氏から認知症カフェ研究に関する協力依頼があり、2月のシンポジウムに澤岡志野氏（東海大学健康学部准教授）を紹介するなど協力しました。また担当者個人としては7月に南ドイツ新聞の Thomas Hahn 記者よりメールで取材を受けています。

3) まちかどピクチャーズ（ニッセイ財団の助成を受けて実施しました）

概要

2023（令和5）年10月より、ニッセイ財団高齢社会地域福祉チャレンジ活動助成を受けて認知症カフェ動画プロジェクト「まちかどピクチャーズ」の活動を開始しました。認知症カフェ等の周知を目的に、2025（令和7）年9月までの2年間で横浜市内外18か所の認知症カフェ等取材し、動画作品を公開します。なお認知症の診断を受けた方が取材チームに加わることも特色の一つであり、認知症になってもその人らしく活躍し続けることができる時代を象徴するような活動を目指します。2024年度は本活動の第1年度下期と第2年度上期にあたりました。

実施内容

- 認知症カフェ等の取材
- 動画作品の公開
- 上映会の開催

成果

- 今年度は10カ所のカフェ取材し、9つの動画作品を公開しました
- 8月に保土ヶ谷公会堂で、2月に横須賀市生涯学習センターで上映会を開催しました
- 2月、第12回かながわ福祉サービス大賞で優秀賞を授与されました

課題・展望

- 引き続き9月までに合計18か所の認知症カフェ等取材し動画を公開します
- 9月15日（祝）に横浜市役所アトリウムで「上映会フィナーレ」を予定しています
- ニッセイ財団による助成期間終了後もこれまでの認知症ケア分野における成果を活かし、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりを目指していきます

4. 第三者評価部

1) 福祉サービス第三者評価事業

実施内容

事業所が安心感を持って評価に臨んで頂けるよう、最初の説明から評価結果の公表まで、丁寧に対応し進めました。毎年依頼のある法人のほか新規の依頼もあり、保育分野で 16 園を実施しました。

- なかまちっこゆめ園・じゃんぷ園（有限会社ドゥーラ）
- 合歓の木保育園（社会福祉法人神奈川厚生福祉会）
- あっぷるキッズ青葉台（社会福祉法人東京愛成会）
- 土と愛子供の家保育所本園（社会福祉法人土と愛）
- 土と愛子供の家保育所第 2（ 同上 ）
- 洋光台中央福澤保育センター（社会福祉法人久遠園）
- ベネッセ青葉台保育園（株式会社ベネッセスタイルケア）
- ベネッセ津田山保育園（ 同上 ）
- ひびき井土ヶ谷保育園（社会福祉法人そだちの杜）
- ひびき金港町保育園（ 同上 ）
- ララランド戸塚第 3（株式会社 LaLaLand）
- 若葉台こども園（社会福祉法人山百合会）
- 岸根こども園（ 同上 ）
- ペガサスベビー保育園（ 同上 ）
- やまゆり中山保育園（ 同上 ）
- 勝田保育園（社会福祉法人和泉福祉会）

成果

○ 保育所に保護者との関係も含め様々な役割が求められる昨今、第三者評価は保育現場のモチベーションにつながる大事なきっかけとなります。事業所を理解した丁寧な質の高い調査・報告を実施したことで、保育に対する自信やさらなる成長に向けてのモチベーションになった等の感謝やコメントを多くいただきました。

○ 調査が始まる前の 6 月に、法人事務所で一堂に会し、勉強会を開催しました。実例をもとにした評価内容や項目評価の視点を共有することで、評価運営委員、調査員の学びの場となりました。さらに終了後には懇親会を開催し、調査員同士の良い交流の場となりました。

○ 第三者評価調査員を希望する方には、当法人の調査の仕方やスタンス、考え方を説明しました。共感いただき、次年度の養成研修受講につながりました。

課題・展望

現在の神奈川県版第三者評価では、評価項目が定められているほかは、評価の手法・使用ツールなどは評価機関にゆだねられています。当法人はしっかりと事業所に向きあえるよう、調査員の訪問回数も多く事業所をお願いすることも多々あります。しかし安価・簡易な方法をとる評価機関もあり、負担を軽減したい事業所に対応している傾向もあります。受託件数が伸びなくとも当法人の方針を守っていくのか、中長期視点での検討が必要です。

5. DX 推進部

1) IT 支援業務

実施内容

日時	場所	内容（参加者）
4月～3月 週2～3日程度	かながわ福祉 サービス振興会	ウェブサイト関連業務支援

成果

昨年度から引き続き、県域の福祉事業を受託している法人から、ウェブサイト関連の業務支援の依頼を受けて、定期的な訪問による支援業務を行いました。今年度は実施日数を増やして対応しました。

課題・展望

次年度からは、必要に応じて検討します。

6. 法人の取組み（管理部）

1) 法人の将来構想検討

実施内容

職員・役員の急な退職、外部要因として行政からの委託事業の一部逸失、委託費・協働事業負担金の削減、諸物価の高騰など、当法人を取り巻く状況も年々厳しさを増している中、理事会を頻繁に開催し、理事・職員で検討を続けました。

成果

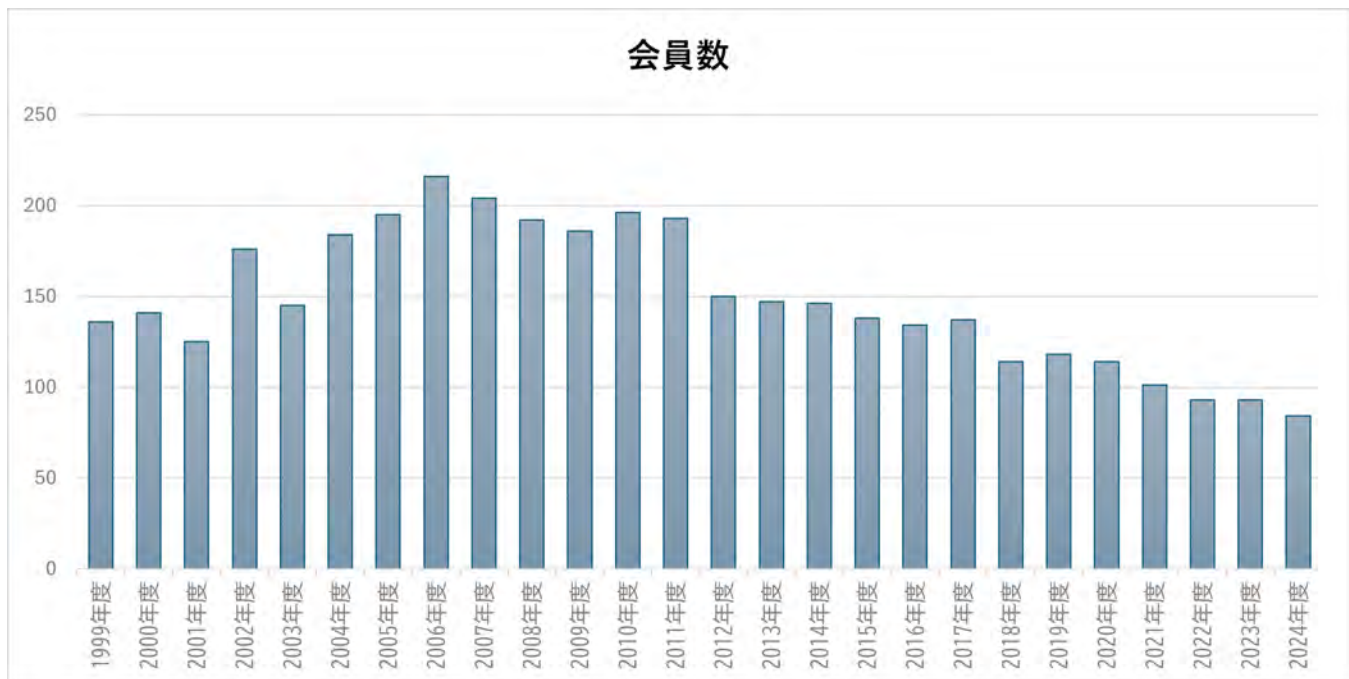
2025 年を「熟慮の一年」と位置付け、2026 年度以降の中期的な計画を、職員・会員の皆様の参画を得て、法人全体で議論しながら検討・策定していこうと決定しました。

課題・展望

行政の次年度予算検討が本格化する夏の時期までに、中期的な計画の骨子を検討し、まとめていきます。その後、2025 年内を目途に、中期的な計画の細目を含めて取りまとめを行います。骨子・細目それぞれの検討の過程において議論の場を設け、関係各位の積極的なご参画を呼びかけて行きます。

資料編

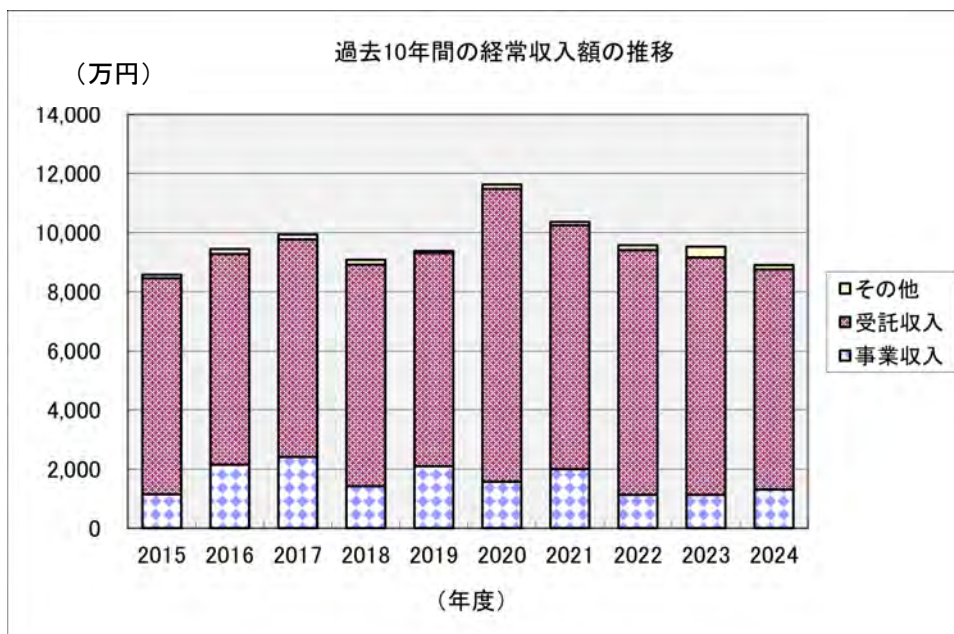
(1) 会員数の推移



※ 各年度末（3月末）時点での正会員・準会員・賛助会員を合計した数値。

※ 数年以上会費納入のない会員について、2025（令和7）年度以降に整理作業を実施予定。

(2) 収入額の推移と内訳



※ 受託収入＝行政からの委託事業（行政との協働事業を含む）

※ その他＝会費収入・助成金収入・寄付金収入など

※ 借入金収入や前期繰越金は含めていない

(3) 市民セクターよこはま 沿革

1998.7	「市民セクター構築のための研究会」発足
1999.9	任意団体「市民セクターよこはま」設立 (9/28)
	横浜ワールドポーターズに店舗兼事務所「こらぼ」開設
1999.12	横浜市への要望書提出「新しい公共の創造へ向けて」
2000.1	配食サービス連絡会発足
2000.9	横浜移動サービス協議会発足（移動プロジェクトより独立）
2001.7	デイサービス・サロン連絡会、事業型 NPO 連絡会発足
2002.2	横浜ワールドポーターズに「NPO スクエア」開設 同所に事務所移転
2002.7	NPO マネジメント支援プロジェクト発足（～2005.9）
2002.10	横浜市市民活動共同オフィスの管理運営を受託（～2009.3） 協働のありかた研究会参画
2003.4	特定非営利活動法人「市民セクターよこはま」設立・登記（認証 4/1） 精神保健連絡会発足
2005.3	設立総会、NPO 法人設立記念パーティ
2004.5	理事長 松本和子 退任、服部一弘 就任
2004.7	横浜会議で研究テーマを提案、採択される 『「暮らしを支える生活術マトリクスモデル」作成と市民力を活かした新システムの研究』
2004.8	認知症ケアマネジメント推進事業開始
	訪問介護員養成研修 1 級課程 開始（～2005.11）
2004.11	事務局内に評価事業部設置、 福祉サービス第三者評価事業開始
2005.6	地域福祉コーディネーター養成研修開始
2005.8	NPO 等に対する相談・アドバイス事業開始（～2008.3）
2006.4	認知症サポーターキャラバン横浜市事務局運営開始（～2024.3）
2006.5	「介護サービス情報の公表」に係わる調査事業開始（～2009.3）
2006.12	理事長 服部一弘 退任、松本和子 就任
2007.1	横浜市指定管理者第三者評価事業開始
2007.10	コミュニティビジネス支援事業開始
2007.11	横浜市中区住吉町（関内）に事務所移転
	地縁型組織とテーマ型組織の協働モデル事業開始
2008.5	理事長 松本和子 退任、中野しずよ 就任

2008.7	区役所窓口サービス向上支援事業開始（～2010.3）
2009.5	定額給付金の代理受領および横浜市への寄附手続き開始（～2009.11）
2009.7	横浜市市民活動支援センター運営開始（～2020.3）
2010.6	よこはま地域づくり大学校（市版） 開校
2011.4	東日本大震災の復興支援活動として岩手県大槌町を中心に実施（～2014.3）
2012.7	認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）として国税庁より認定
2013.4	横浜市中区太田町（馬車道）に事務所移転
2014.3	みんなが幸せになるための地域づくりの知恵袋 発行
2014.4	にしく市民活動支援センター運営開始 横浜市市民活動支援センター運営（第2期）
2016.1	神奈川県指定特定非営利活動法人（県指定 NPO 法人）として神奈川県より指定
2017.4	認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）として横浜市より認定
2019.4	にしく市民活動支援センター運営（第2期）
2019.5	「市民セクターよこはま」20周年記念フォーラム開催
2020.4	横浜市市民協働推進センター運営開始
2020.6	横浜市中区弁天通（馬車道）に事務所移転
2023.4	横浜市市民協働推進センター運営（第2期） 事業部制導入、DXの推進
2023.6	理事長 中野しずよ 退任、鈴木智香子 就任
2024.4	にしく市民活動支援センター運営（第3期）

（４）2024（令和6）年度の役員・事務局スタッフ

● 役員（理事・監事）

理事長	鈴木 智香子
副理事長	服部 一弘、松本 道雄（～2024年8月）
理事	伊吾田 善行、伊藤 朋子、大塚 宏、大木 節裕、山田 美智子
監事	山野上 啓子、梅澤 厚也

● 事務局スタッフ

事務局長	松本 道雄（～2024年8月）
市民協働推進部	
部長・副部長	伊吾田 善行、韓 昌熹
コアスタッフ	小川 由起子、鈴木 ゆりり、尾崎 恵莉

サポートスタッフ	村田 育男、撞井 静雄、原田 姫子、柳本 薫、住吉 重紀、木村 要子 高田 美恵、野間 慎太郎、吉富 秀一、高橋 芳伸
市民活動支援部	
部長	山田 美智子
コアスタッフ	山本 雅子、加世田 恵美子
サポートスタッフ	北川 洋、内藤 雅子、藤原 祐子（2025 年 2 月～）
まちかどケア事業部	
部長	鈴木 智香子
コアスタッフ	小菅 聡一郎
第三者評価部	
部長	加世田 恵美子
サポートスタッフ	石川 亜紀子、野田 ゆかり（2025 年 2 月～）
DX 推進部	
部長	松本 道雄（～2024 年 8 月）
コアスタッフ	中野 芽衣
管理部	
部長	松本 道雄（～2024 年 8 月）
コアスタッフ	加世田 恵美子、中野 芽衣
サポートスタッフ	白 露

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

2024(令和6)年度

決 算 書

1. 活動計算書
2. 貸借対照表
3. 財務諸表の注記
4. 財産目録

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

活動計算書

2024 年 4 月 1 日 ～ 2025 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	167,000		
賛助会員受取会費	55,000	222,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	57,000	57,000	
3. 受取助成金			
助成金収益	1,180,000	1,180,000	
4. 事業収益			
自主事業収益	13,086,043		
受託事業収益	74,449,391	87,535,434	
5. その他収益			
受取利息	15,906		
雑収益	200	16,106	
経常収益計			89,010,540
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬	294,600		
給料手当	45,333,613		
賞与	9,054,240		
法定福利費	7,787,253		
通勤手当	2,927,148		
福利厚生費	514,776		
人件費計	65,911,630		
(2) その他経費			
売上原価	10,300		
講師謝礼金	5,525,774		
業務委託費	1,930,190		
顧問料	1,021,152		
旅費交通費	726,483		
通信・運搬費	2,686,404		
印刷製本費	925,776		
消耗品費	1,155,608		
事務所家賃	2,523,503		
水道光熱費	207,710		
支払手数料	516,216		
リース料	909,011		
保険料	17,056		
イベント費	619,208		
広告宣伝費	22,667		
研究・研修費	98,260		
会議費	34,733		
新聞図書費	47,940		
租税公課	5,874,581		
交際費	5,997		
諸会費	62,223		
減価償却費	526,731		
長期前払費用償却	64,833		
その他経費計	25,512,356		
事業費計		91,423,986	

2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬	783,800		
給料手当	460,384		
法定福利費	353,583		
通勤手当	172,088		
人件費計	1,769,855		
(2) その他経費			
旅費交通費	7,338		
通信・運搬費	27,135		
印刷製本費	9,351		
消耗品費	11,672		
事務所家賃	105,145		
水道光熱費	8,654		
リース料	9,181		
支払手数料	21,508		
顧問料	42,548		
イベント費	25,800		
減価償却費	21,947		
長期前払費用償却	2,701		
諸会費	2,592		
貸倒繰入額	29,000		
その他経費計	324,572		
管理費計		2,094,427	
経常費用計			93,518,413
当期経常増減額			△ 4,507,873
III 経常外収益			
貸倒引当金戻入		43,600	
経常外収益計			43,600
IV 経常外費用			
貯蔵品除却損		414,109	
経常外費用計			414,109
税引前当期正味財産増減額			△ 4,878,382
法人税・住民税および事業税			74,500
当期正味財産増減額			△ 4,952,882
前期繰越正味財産額			42,300,696
次期繰越正味財産額			37,347,814

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

貸借対照表

2025 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	35,548,842		
未収金	4,801,893		
貸倒引当金	△ 29,000		
棚卸資産	32,800		
前払費用	324,051		
流動資産合計		40,678,586	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物附属設備	871,340		
工具器具備品	179,476		
有形固定資産計	1,050,816		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	1,913,061		
有形固定資産計	1,913,061		
(2) 投資その他の資産			
敷金	902,497		
長期前払費用	67,533		
投資その他の資産計	970,030		
固定資産合計		3,933,907	
資産合計			44,612,493
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,107,504		
未払費用	4,303,709		
預り金	246,466		
仮受金	0		
未払法人税等	74,500		
未払消費税等	1,532,500		
流動負債合計		7,264,679	
2. 固定負債			
固定負債合計			
負債合計			7,264,679
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		42,300,696	
当期正味財産増減額		△ 4,952,882	
正味財産合計			37,347,814
負債及び正味財産合計			44,612,493

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は、原価基準により評価方法は最終仕入原価法によっています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて、建物および建物附属設備については定額法、その他の資産は定率法で償却をしています。

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物附属設備	1,433,925	0	0	1,433,925	△ 562,585	871,340
工具器具備品	3,871,239	127,343	0	3,998,582	△ 3,819,106	179,476
無形固定資産						
ソフトウェア	1,162,350	1,906,300	0	3,068,650	△ 1,155,589	1,913,061
合 計	6,467,514	2,033,643	0	8,501,157	△ 5,537,280	2,963,877

法人名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

財産目録

2025 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
にし区市民活動支援センター小口現金	34,350		
その他小口現金	61,629		
リソ印刷機利用者収入3月分	10,510		
セルフコーヒー収入(6-3月分)	29,650		
利用者用コピー機収入	5,970		
横浜銀行普通預金(共通通帳)	2,709,374		
横浜銀行普通預金(推進センター通帳)	3,931,789		
横浜銀行普通預金(第一通帳)	10,072,757		
横浜銀行普通預金(にし区支援C通帳)	3,975,914		
横浜銀行普通預金(ニッセイ財団事業用通帳)※旧AED通帳	1,456,699		
ゆうちょ銀行(会費等振替口座)	3,253,015		
横浜銀行定期預金	10,007,185		
現金預金計	35,548,842		
未収入金			
横浜市都市整備局 まち普請事業運営費用	2,700,412		
横浜市 空家の地域活用に関する業務委託費	1,490,720		
かながわ福祉サービス振興会 3月作業費用	233,021		
みんかな×男女共同参画防災事業受託費	187,000		
「西区今昔かるた」売払代金収納受託	96,140		
「西区今昔かるた」地域人材養成講座	94,600		
未収入金計	4,801,893		
貸倒引当金	-29,000		
商品			
書籍在庫	32,800		
前払費用			
西区街の名人達人冊子	96,525		
コーケンキャピタルビル 4月分家賃	219,054		
法人事務所 火災保険	8,472		
前払費用計	324,051		
流動資産合計		40,678,586	
2. 固定資産			
建物附属設備			
法人事務所内装工事	871,340		
工具器具備品			
法人事務所テーブル及び椅子	179,476		
ソフトウェア			
助成金受付・管理システム構築費	70,304		
センターWebサイトリニューアル	1,842,757		
敷金			
リストインターナショナルリアルティ 敷金	902,497		
長期前払費用			
コーケンキャピタル 法人事務所契約更新料	67,533		
固定資産合計		3,933,907	
資産合計			44,612,493

科 目	金 額		
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
映像作成撮影編集/Well-Beings	253,000		
法人職員健診代/神奈川県予防医学協会	85,752		
第三者調査員報酬	67,012		
NTT東日本、ミラテク、ソフトバンク通信運搬費	111,899		
源泉所得税未納分	202,659		
日本郵便郵送料3月分	103,793		
八雲堂、大塚商会富士フィルム印刷製本費5件	33,870		
2025年度センターWebサイト保守料/(株)ノチ基地3月分	27,500		
VISAカード利用料3月分	73,014		
産業廃棄物収集運搬料	13,976		
税理士顧問料	44,000		
振込手数料9件	3,080		
なないろのはな、SMTパナリス大塚商会	8,250		
ユニマツリリース料	7,392		
東京電力 3月分利用料	17,620		
その他9件計	54,687		
未払金計	1,107,504		
未払費用			
3月分給与	4,303,709		
預り金			
3月分給与 源泉所得税	63,966		
住民税	182,500		
預り金計	246,466		
未払法人税等	74,500		
未払消費税等	1,532,500		
流動負債合計		7,264,679	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			7,264,679
正味財産			37,347,814